

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム せせらぎの森 ななかまど	評価実施年月日	平成21年12月1日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年12月13日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「穏やかで楽しい尊厳ある暮らしを保障する」「その人らしいあたりまえの暮らしを保障する」という理念を掲げている。		
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念をスタッフルームに掲示してある。またユニットの理念として会社の理念とは別に「笑顔の毎日」「穏やかな暮らし」「和める場所」という理念を掲げ日々取り組んでいる。	○	理念の実践・理念の共有に取り組んではいるが、振り返る機会を設ける必要がある。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホームの理念を見やすい位置に掲示したり、入居時などに説明している。	○	運営推進会議などを通して、少しずつホームについて地域の方に理解していただけるように努める。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	小学校の花壇の手入れや、児童会館のお祭りへの声が掛かったり、児童会館の子供たちが遊びに来てくれたりと交流が持っている。また、近隣の方と会ったときには挨拶を交わすなど積極的にしている。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のお祭りなどには積極的に参加し、孤立することないように努めている。また他事業所と共にお祭りを開催し、近隣の方々にも参加していただいている。	○	今後も積極的に地域との関わりを持って行きたい。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議などを通じ民生委員や町内会長・地域包括支援センターCMと共に地域高齢者の状況などについて話し合い、情報の共有や視野を広げ取り組んで行けるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
○評価の意義の理解と活用 7 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ユニット会議にて評価の意義を説明し、それを踏まえて自己評価に取り組んでもらっている。		
○運営推進会議を活かした取り組み 8 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度、民生委員・町内会長・御家族・地域包括支援センターCMに参加していただけるように働きを掛けており、自己評価・外部評価の説明は行っている。	○	
○市町村との連携 9 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	必要な時には連絡を取り、相談・情報交換を行っている。		
○権利擁護に関する制度の理解と活用 10 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	今のところ制度を利用する必要性のある入居者が居ないのが現状である。	○	職員全員が制度の理解と活用の仕方を把握している訳ではないので勉強できる機会を設けて行く。
○虐待の防止の徹底 11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止マニュアルをユニットに設置し、職員がいつでも確認できるようにしている。また虐待はしないという理念は全職員の中に浸透している。		
4. 理念を実践するための体制			
○契約に関する説明と納得 12 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前の見学から、料金、緊急時などの対応について詳細に説明をして理解を得るようにしている。契約を結ぶ際、または解約の際には契約者、重要事項説明者を用い御家族が納得いただけるよう、話し合っている。今後の事も予測した上での話し合いも行っている。		
○運営に関する利用者意見の反映 13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者から伺った事を申し送りやユニット会議にて利用者の不安や苦情に対する思いを全職員で話し合ったりしている。また入居者の言動から思いを受け止める努力をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月送っているせせらぎ通信に個々の状況を記載し送付している。面会時には日常の様子を必ず伝えている。金銭の出納に関しては通信発送時に一緒に領収書などを同封している。また健康状態に異変があったり、往診時・受診時に医師より説明・指示があった際には速やかに電話などで家族に連絡している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	口頭での意見などに関しては、すぐに即運営に反映できるように努めている。また、ユニット入り口に意見箱を設置しており、重要事項説明書には、国保連窓口と社協などの苦情担当窓口の案内を載せユニット内にも掲示している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議、または日頃から意見や提案などを話しやすい雰囲気であるようにコミュニケーションを図っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状況・状態に合わせた勤務体制の確保が出来るよう努めており、状況に応じ勤務時間の調整が行えるよう職員の理解と協力を得ている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	基本的には各ユニットの職員を固定化し顔なじみの職員による援助を心かけているが、全職員がどちらのユニットでもスムーズに支援に当たれる関係性を築けるよう、普段からいちようユニットとも交流を持ち異動によるダメージを最小限に抑える配慮を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格取得に向けた情報提供やシフト調整などを行い、外部研修に参加できる機会があれば書面・口頭にて職員全員に伝えている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	東区管理者連絡会議に参加しているその中での交流会(見学会)など積極的に行いネットワーク作りをすると共に、さまざまなケアのあり方を勉強し、質の向上を目指すよう努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	休憩時間は決まっていないが、現場の状況をみて自由に喫煙・休憩など行えるようにしている。また日頃から意見・要望をいつでも相談できる環境づくりに努めている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員個々が自発的に研修に参加できるよう支援している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	御本人の今までの生活状況などを把握し、御本人からも要望や不安などお話しいただき、ホームでの対応例などを伝え、不安を少しでも軽減できるような努力をしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前に御家族から生活状況・不安・要望などを聞き、どのような対応が出来るのかホーム側の意向を伝えながら話し合い、理解をしていただいた上で契約を結んでいく。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	「その時」何を一番に優先しなければならないのか、職員・家族と相談しながら、柔軟な対応を心がけている。もし、今の段階で他のサービスが必要であった時には情報を提供・紹介している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に御家族から情報を収集し、入居後は日々の記録を細かくとり、職員・家族と情報を共有し利用者にとって安心できる環境とは何かを考えサービスの質の向上に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者と一緒に調理をしたりホーム内でのレクリエーション参加、また、日々の生活の中で一緒に出来ることを探し共に学び感謝できる関係を築けるよう努力している。	○	今行っていること以外にも、まだまだ多くの入居者の興味のある事・出来ることがあると思うので、職員全員で考えて行きたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	御家族には日頃の様子を面会時や通信などを通して伝える事で関係が途切れないよう努めている。また、御本人に状態の変化があった時には、すぐに連絡を取り経過報告するなどし、協力関係を築き一緒に支えあえるに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	御本人・御家族の話から双方の関係を理解し、安心した関係が保たれるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今まで大切にしてきた馴染みの人が面会に来たときなど、気持ちよく過ごして頂けるよう努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気の合う入居者を把握し、一人ひとりが孤立せずに過ごせるよう職員が間に入りコミュニケーションをとり入居者同士が支えあえるように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去された方の入居者・家族との特別な関係はない。また御家族から要望があれば相談を受けるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、御本人から発せられる言葉の中から、希望や意向の把握に努めている。また御家族からも情報を収集し把握に努めている。また、意思表示が困難な方に対しても、その人らしい生活を送る事が出来るのかを御家族や過去の経歴などから、入居者の立場で考えるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に御本人・御家族から出来るだけ情報収集をし、センター方式等のツールをあらかじめ御家族にお渡しして、無理のない範囲で記入していただいている。入居後も暮らしの中から一つ一つ確認しながら把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ADLシートを活用し「出来ること・出来ないこと」を見極め、出来ないことをお手伝いしていけるように全職員が把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	御本人がより良く暮らせるための課題とケアのあり方について、御家族や医師など必要な関係者に話を聞きながら介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	6ヶ月・3ヶ月と期間に応じた見直しを行うことはもちろんの事、今までの御本人の状態で変わってきた時など新たな計画書を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の生活の様子や気付いたこと、御本人の言葉など細かなところまで記録に残し、介護計画の見直しに活かすようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	日々の生活の様子や気付いたこと、御本人の言葉など細かなところまで記録に残し、介護計画の見直しに活かすようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防とは防災訓練を通じて連携が取れている。また運営推進会議なども含め民生委員などと協力しながらの支援の準備は出来ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域の他のケアマネジャーやサービス事業者との連携は出来ており、必要な時には柔軟な対応が出来る準備は出来ている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議などで包括支援センター職員との関わりがあり、情報交換をしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	入居時に馴染みの医療機関への受診の希望があれば継続し、特に希望がない場合には説明を行い、ホーム協力医療機関を紹介している。2週に1度往診があり相談・支持を仰ぐ状態にあり、専門的な治療が必要な場合には専門医を紹介してくれるなどしている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	ホームの協力医療機関の医師が認知症患者にも熱心な対応をしてくれている。また、地域の精神科医師と関係を築きながら安心して受診・治療が受けられるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホーム協力医療機関より看護師が週1で訪問している。また何か不安な事がある時には相談しながら日常の健康管理をし、緊急時にすぐに連絡を取り指示をもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	御家族とも・病院側とも情報交換を密に行い、早期に退院できるよう努めている。また頻繁にお見舞いに行くようにして、本人の不安や混乱のないようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居契約時に見取りの指針を御家族にお渡しし、重度化した場合の同意書を御家族より頂いている。また終末期に入った場合には御家族・かかりつけ医と十分に話を重ね、看取りの同意書を頂き今後の方針を相談してい。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	御家族・かかりつけ医と十分に話し合い、今後の生活がより良く過ごせるように、事業所の「できること・できないこと」をしっかりと見極め検討・準備をしている。		
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	御家族や御本人と十分にお話し、希望や状態を理解した上で、ある程度の納得をしていただいた上での移動している。また、必要に応じて、次のサービス先への連絡・情報交換も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	職員は雇用時に個人情報に関する誓約書に同意・サイン(記録や個人情報の持ち出し禁止など)しており、それに基づいて業務にあたっている。また、ミーティングの場で誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけを徹底するように職員に伝えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	その人その人に合わせた説明を行い、ゆっくりと話す・二者択一での質問をするなどし、焦らず十分考えて決められるように傾聴している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事やおやつ時間は決まっているが、それも本人の状態に合わせて変更している。入居者の個々の時間を有意義に過ごしてもらえるようにしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	身だしなみやお洒落については、その方の意思を尊重することを先ず考え、時には職員の方からも提案させて頂き気持ちよく生活出来るよう支援している。自己決定の難しい方には季節感やその人らしい装いになるようにしている。また月に1度の訪問美容室の際には希望を聞き利用して頂いている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事作り・片付けなど、その日の入居者の体調をみてお手伝いして頂いている。中には毎日の習慣になっている方もおられる。それぞれの好みを取り入れたメニュー作りをしており、冷蔵庫にそれぞれの方の嗜好や禁食を表示したものを掲示し、全職員で周知している。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在、日常的にお酒を希望される入居者は居ないが、クリスマスやお寿司パーティー等の時にはノンアルコールのお酒を提供し、パーティーの雰囲気を楽しむ一つとして希望される方に提供している。また、煙草を吸われる方については、職員の方で預かりをし、希望時に喫煙スペースで楽しませている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用し、個別にトイレ誘導を行っている。また、オムツ類の必要な方に関してはご本人に合わせたりハビリパンツ・パットなど使用しているが、排泄パターンの把握、顔色、表情、しぐさ等を観察し、出来るだけ失禁の無いように努めてる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の時間帯は特に決まっておらず、入浴の希望がある時には午前中でも入浴できるよう支援しているが、基本的には午後からの入浴が多い。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中、傾眠が見られる際には居室での臥床やホールソファでの休息を促している。又夜間眠れない方には、ホットミルクを提供するなど工夫し穏やかな安心した気持ちで睡眠が取れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	それぞれが日々の生活の中で出来ることを自然に行えるように支援している。また個々の力を生かした食器洗い・おぼん拭きなど役割として支援できている。	○	もっと多くの希望を聞き、興味を引き、楽しめる事を入居者・職員と共に検討していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	御本人で金銭管理ができる方にはご自分で管理して頂いているが、基本的にはホームの方で管理しています。ご自分で持ち、支払える方には見守り、必要時には助言をしている。また購入後はお買い物帳に記入し、必要時には御家族や御本人がいつでも見れるようになっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日にホームの近くを散歩したり、希望者を募りドライブや公園にハイキングに行っている。また、日常の買い物など入居者と一緒に行くなどもしているが、全ての入居者の希望に添えている訳ではない。	○	一人ひとりの希望を聞きだし、可能な限りの外出をしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	毎月2～3回行っている外出行事には必ず入居者の嗜好に沿ったもの(果物狩り・温泉など)を取り入れ、それぞれが楽しんで頂けるようにしている。また、墓参りや法事などの節目の行事やお正月などの帰省時には御家族の協力を得ながら体調面を考慮し、自由に行けるようにしている。また、職員が必要な場合には同行できる(家族のお見舞いなど)体制にしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	御本人からの要望があれば、いつでも電話を掛けられるようになっており、入居者に掛かってきた場合でもホール内にてお話ができるようになっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に面会して頂けるよう時間は決めておらず、居室でも居間でも自由に過ごしていただき、楽しいひと時になるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束マニュアルを作成し職員が常に確認できるようにスタッフルームに設置している。ユニット会議や日常の業務中でも身体拘束になる事を細かく伝え、拘束はしていない。	○	身体拘束についての研修の機会を増やして行く。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関などを施錠せず、いつでも外出できるようになっている。玄関を開けると音楽が流れるようになっており、入居者の安全も保たれている。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	ホールには必ずスタッフが居り、見守りを行っている。また日々の生活を一緒にしながら見守りし、違和感を感じさせないような配慮のもと常に入所者の所在を確認し、職員間で伝え合っている。居室の戸を閉めるのは御本人の自由としている為、プライバシーは保たれている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の状態に応じて危険と思われるものは時には御家族と相談し職員が管理し、御本人からの要望がある際には提供し見守り、安全に努めている。使用後はまたお預かり、回収している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止マニュアルを作成し、職員が目とうせるようにユニットにおいている。何かあった際には、ひやりはっと、事故報告書を作成し、今後の対応策をその日の出勤スタッフで検討、事故防止に努めている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対応についてはユニット会議などで説明しているが、救急救命の訓練を行うまでには至っていない。	○	今後、消防などに依頼したり、そのような研修の場があれば参加していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害対策マニュアルをスタッフがいつでも確認できるように作成している。また、避難訓練を消防所職員の立ち会いのもと入居者も参加し行っている。緊急時連絡網を作成し、電話近くに掲示しており、緊急時にはホーム近くに住む職員がすぐに駆けつけられる体制がある。	○	運営推進会議などを通して、ホームの情報を公開し、地域の方々の理解と協力を得られるようお願いしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている。	御家族の面会時には状態報告をこまめに行い、その時々 の状態を把握して頂けるようお伝えしている。また緊急時・特変時には即電話連絡し御家族・医師と一緒に 対応策を考えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日決まった時間にバイタルをチェックし、様子の変化時には再度バイタル測定をし掛かりつけの医師に相談、場合によっては受診もしている。また申し送りにてその日の夜勤者や次の日の勤務者に伝え情報の共有をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋は個人ファイルに閉じており職員がいつでも確認できるようにしており、処方が変わって際には連絡ノートに薬名、目的、注意点などを管理者が書き、職員全員に周知し症状の観察に努めている。また、服薬の際には職員2人以上で確認し、御本人が飲み込むまで確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	一日の水分摂取量を1500ccを目どにし、野菜、繊維質の多い食材を取り込んだメニュー作り、寒天でゼリーを作るなどの工夫をしています。状況に応じて散歩や風船を使った遊び等で体を動かす機会を作っています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個々の状態に合わせ、毎食後の口腔ケアを実施し、就寝時には義歯をポリドントに浸けていただいている。また、協力医療機関の歯科が往診の際には歯磨き指導や、義歯の取り扱いについて入居者・職員共に説明を受けている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量は日々記録に残し、いつでも確認できるようになっている。水分量が少ない方には吞みたいものを伺ったり、こちらから提供したりしながら飲水を促し、摂取量が不足している方がいた時には時間を決めず、食べれる時に食べれるものを提供し、その方の状態に合わせて形状を変えるなどして支援をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	感染症予防のマニュアルをユニットに置き、スタッフがいつでも見ることができるようになっている。また、掃除や消毒の際には次亜塩素酸ナトリウムアルコールを使用しており、入居者・スタッフはうがい・手洗いを実施し予防に努め、インフルエンザワクチンの予防接種も行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は毎週、月・水・金曜日に購入し鮮度の良い食材を提供できるようにしている。また、まな板や布巾は毎日消毒し衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関に一息つけるようなベンチを置いたり、夏場には玄関前に入居者様と一緒に植えたプランターを飾ったり、駐車場脇の花壇では野菜を育てるなどし、親しみやすい環境づくりの工夫をしている。	○	冬場の玄関や建物周囲の工夫が足りないので取り組んで生きたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	クリスマスやお正月にはその時々合った飾り付けをし季節感を取り入れたり、窓から見える景色は四季の移り変わりを感じる事ができる。また、清潔の保持に努め居心地の良い生活の場を心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	指定の席以外でも気軽に気の合う入居者様と過ごせ、ホールにはソファを置き、喫煙所には椅子を設け、御本人の気分であつろげるスペース作りをしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	御本人にとって馴染みのある物を入居時に持ってきていただき、御本人にとっても、御家族にとっても居心地よく生活できるように御本人や御家族と相談しながら行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日の掃除の際には換気に努め、各居室の室温も本人に合わせた暖かさに調節できるようにしている。又居室・居間には温度計・湿度計を置き調節をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者が歩行しやすいように共有部分には手すりが設置してある。トイレや浴室にも手すりが設置しており、自立できるように工夫されている。ユニット内1周できるようになっており、歩行運動の場にもなっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室やトイレ、浴室などには表札を作成し、戸惑いや混乱が無いように配慮している。また、本人が混乱が無いように職員間で援助方法の共通化に努めている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	駐車場の脇の花壇を利用し、トマトや胡瓜などを育て水やり・収穫などを利用者と一緒に行い楽しみの一つとなっている。		

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☒ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2／3くらい ☐ ③利用者の1／3くらい ☐ ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☒ ①毎日ある ☐ ②数日に1回程度ある ☐ ③たまにある ☐ ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☒ ②利用者の2／3くらい ☐ ③利用者の1／3くらい ☐ ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☒ ②利用者の2／3くらい ☐ ③利用者の1／3くらい ☐ ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☒ ②利用者の2／3くらい ☐ ③利用者の1／3くらい ☐ ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	☒ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2／3くらい ☐ ③利用者の1／3くらい ☐ ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☒ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2／3くらい ☐ ③利用者の1／3くらい ☐ ④ほとんどいない

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）
 ・毎月2回以上はレクリエーションを行っており、レク外出はもちろんのこと、天気の良い日は入居者からの希望も聞き散歩やドライブに出かけている。ホーム内においても食事が楽しめるよう工夫したりしながら日々充実した生活が送れるよう努めている。